

さんま通信

厚生中央病院だより 第83号

厚生中央病院の理念

1. 私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
2. 私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
3. 私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。



目 次

- 新年のご挨拶 1~2
- 診療科からの新年の抱負 3~4
- 当院での抗がん剤治療について 4

新年のご挨拶

病院長 河島 尚志



新年あけましておめでとうございます。新春を皆様と迎えられたこと、うれしく思います。

昨年は、コロナ感染症は終息とまではいえないまでも、医療的にはコントロールできる感染症となりました。しかし、医療を取り囲む環境は、大幅な保険改正、物価高による諸経費上昇、働き方改革などによる人件費高騰など、病院を取り巻く環境は厳しいものがありました。真に必要となる医療が追求され、ニーズに合わないものは淘汰する動きなど、決して楽な日々はない一年がありました。

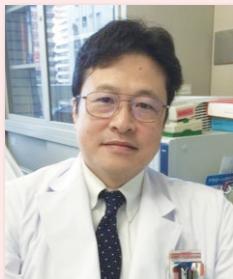
こういったなかでも、今年も厚生中央病院は、地域中核の多機能型総合病院としての役目を果たしていく所存です。昨年同様に、地域での多くの急性期診療に携わらせていただくつもりです。昨年より、準夜帯での小児科診療を一部開始、産後ケアなどの受け入れ強化や、乳腺外科や胸部外科など増員を行い、病院機能を高めてきました。本年度も同様に、医療の日進月歩に乗り遅れることなく、病院機能のブラッシュアップをおこなっていきます。

本年度は、経営的基盤を安定しながら、一昨年度から継続している改革を終えることなく、高機能病棟 (HCU) 設立やドックの拡充、2次健診の充実などの計画を進めていきます。さらに、患者ニーズにこたえるようめまい外来、気胸外来、アスベスト外来などの特殊外来によりわかりやすい外来体制にし、患者サービスを行っていきます。DX化やインバウンドの受け入れも充実し、当院としては、患者ファーストの視点にて、今年も「働くひとの健康を守る」をモットーに、よりよい医療を提供できる病院にしていきます。当院の理念である患者様が温もりを感じるような厚生中央病院ならではの医療、病院機能の充実を行い、職員一丸となって活発かつ健全な病院になるよう努力してまいります。

最後になりますが、皆様方の素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

副院長 秋元 治郎



新年あけましておめでとうございます。副院長で脳神経外科部長を務めております秋元治郎と申します。本年も厚生中央病院は地域住民の方々、保険組合員の方々を中心に、健康診断による病気の発見から、早期治療そして治療後のフォローアップを行い、さらに皆様の生活における問題点の解決につながる様な支援に邁進してゆきたいと思います。

さて、皆様が何らかの疾病に罹患された時、どの様な治療選択をされるでしょうか。インフォームドコンセントという言葉をお聞きになったことがあると思います。これは医療者がその疾病的病態を説明し、治療の選択肢を患者様に提供し、患者様がその選択肢の中から治療法を選択するというもので、説明と同意と訳されております。ただ、このインフォームドコンセントでは、医療者は説明者に過ぎず、その治療を選択した責任は全て患者にあるという考えが基盤にあるのです。しかし、選択した治療が絶対安全で、予想通りの結果につながることばかりではありません。その点、厚生中央病院では、疾病の原因や病態、治療法などを患者さんを混えた多職種からなるチームで一緒に考え、治療選択をおこなってゆく方針をとっております。一人一人の患者様には社会的背景、経済的、家庭的事情、人生観、宗教観などそれぞれの事情があります。患者様を全人的に捉え、どの様な治療を受けることが最も価値があるのかを、医療者と患者がチームとなって一緒に考える（共同意思決定）ことを最優先に考えております。

本年も厚生中央病院は患者ファーストで、温もりを感じていただける様な医療を推進してゆきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

看護部長 西川 英子



新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、人件費の高騰・物価上昇と多くの医療機関で赤字が続いているというニュースが多く聞かれた一年でした。

人が豊かにそして健やかに暮らすためには、病院はなくてはならない存在である思っています。その病院が安定して存在する事こそが、地域の皆さまや被保険者の皆さまの生活そのものの安心につながると思っています。

体調に不安があっても、厚生中央病院があるから大丈夫！と、思っていただけるように、頑張ってまいります。

丙午の今年は、火のように情熱を持ってより一層看護部全体で看護の質の向上に努めてまいります。

本年も何卒宜しくお願い致します。

副院長 五関 善成



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

医療を取り巻く環境は依然として厳しく、持続可能な体制の構築が求められています。そのような時代だからこそ、目黒の地に根ざし、地域の医療関係の皆様方との連携をより一層深め、確かな医療連携をともに支えて行きたいと考えています。

本年は丙午の年、情熱と行動力を象徴するこの年に、「心の通ったぬくもりを感じる医療」という理念のもと、香ばしく焼けた“目黒のサンマ”的に土健保組合被保険者の皆様および地域の方々に親しまれ、頼られる病院として貢献して参りたいと思います。

皆さまのご健勝とご発展をお祈り申し上げるとともに、本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほどお願い申しあげます。

事務部長 機田 恩



新年あけましておめでとうございます。

厚生中央病院は、地域中核病院として良質な医療の提供や、患者サービスの向上に取り組むとともに、医療安全の確保や個人情報の保護・管理を徹底し地域の皆様方から信頼される病院を目指して参ります。

また、全国土木建築国民健康保険組合の直営病院として、利便性の向上を図り被保険者サービスに努めて参ります。人間ドックに関しては1日ドックの定員増及びWEB予約枠の拡大に努めるとともに、他の施設で受診した健康診断の再検査についてはスムーズに外来受診できる取り組みを進めて参ります。

本年も「心の通った温もりを感じる医療を目指します。」という病院理念の実現に向けて、職員一同、真摯に取り組んで参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

診療科からの新年の抱負

総合内科部長 小野 啓資

新年明けましておめでとうございます。昨年の夏は例年より暑く、10月になりようやく涼しくなったと思えばすぐ寒くなり、皆様方も対応が大変だったと思います。この時期は寒い日が続きますが、お身体に気をつけて頂きたく思います。一般的に総合内科というと、初診時のみ対応して以後はそれぞれの専門科に任せることで、いわゆる“総合診療科”的なニュアンスが強いのですが、当院の場合は循環器、消化器以外の内科領域をカバーする内科で、領域は呼吸器、血液、脳神経、代謝・内分泌そして救急医療に及んでいます。患者様は一つの病気のみを抱えているとは限りません。特に高齢の方の場合、単一の疾患のみが存在している事はむしろ珍しく、臓器別の対応が難しいケースも少なくありません。そのような場合、当科のようなスタイルがむしろ適している可能性があります。私たちはこれからも自分の専門領域に閉じこもらず連携しあい、患者様のニーズに少しでも答えることができるよう日々研鑽を続ける所存です。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

循環器内科部長 五関 善成

謹んで新年の御慶び申し上げます。本年丙午の年に習い、新たな挑戦と改善を重ね、地域の医療機関や施設の皆様方と連携して地域全体で1人の患者様を診ていく診療を心がけたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

消化器内科統括部長 根本 夕夏子

消化器疾患全般の検査および治療を積極的に行っております。患者様が受診してから検査、治療まで、できるだけスムーズに受けられるよう心掛けています。ご紹介頂いた患者様の情報共有も迅速に行なうよう努めて参ります。

消化器外科部長 杉山 祐之

新年あけましておめでとうございます。急性虫垂炎・急性胆囊炎・急性腹症などの救急診療を一層強化し、地域医療機関との連携を深めて治療へシームレスにつなげます。昨年のご紹介に深く感謝し、本年も引き続きご紹介をお願い申し上げます。健康保険組合員ならびに地域の皆さまに安心・安全な医療をお届けいたします。

整形外科統括部長 中山 隆之

新年のお慶びを申し上げます。日頃からの地域の皆さま並びに医療機関の皆さまのご支援に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。これからも地域に寄り添い安全で信頼される医療の提供に努めてまいります。

リハビリテーション科部長 佐々木 伸

新年あけましておめでとうございます。リハビリテーション科は理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3部門の専門療法士が在籍し、急性期疾患にて低下した身体機能などを回復し、楽しく生活できることを目標にリハビリテーションを行っています。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

小児科医長 森下 那月美

子どもたち一人ひとりの成長を支え、ご家族に寄り添う温かい医療を大切にします。地域の小児医療の充実に努め、本年も安心して相談いただける診療科を目指します。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

産婦人科部長 神田 理恵子

当院産婦人科は、女性医師が多く明るくアットホームな雰囲気が特徴です。総合病院の特徴を生かし、内科、外科、小児科、麻酔科、精神科等、他科とのスムーズな連携により、安心・安全な医療を目指しています。まずは、お気軽に産婦人科外来へお越しください。

眼科部長 森 秀樹

新年明けましておめでとうございます。旧年中に賜りました数々のご厚情とご支援に眼科スタッフ一同心より御礼申し上げます。新たな年を迎えたが、これまで以上に地域の皆様に安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

耳鼻咽喉科医長 永井 賀子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、地域の皆さま並びに関係医療機関の皆さまにご支援を賜り、心より感謝申し上げます。2026年は、より身近で信頼される耳鼻咽喉科を目指し、診療の質の向上と地域連携の一層の強化に努めて行きたいと思います。また耳・鼻・喉の疾患に対する早期診断・早期治療を推進し、生活の質を守ることを重視してまいりたいと思います。皆さまにとって、健康で穏やかな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

皮膚科医長 山本 真実

昨年より爪切り足ケア外来を設け、高齢者や巻き爪・肥厚した爪などご自身での処置が困難な方々に対して爪切り等を行う取り組みを始めました。地域の皆様に寄り添い、より質の高い医療が提供できるよう引き続き努めて参りたいと思います。

泌尿器科医長 黄 和吉

泌尿器科では尿路結石や前立腺肥大症などの良性疾患を中心に、低侵襲な手術を心がけております。2024年から前立腺肥大症に対するWAVE治療も開始され、治療の選択肢が増えました。今後も患者様ごとに最も適切な治療法と一緒に考え、相談しやすい診療科を目指していきます。

放射線科副部長 金城 忠志

新年あけましておめでとうございます。診療放射線科では、X線・CT・MRI・超音波検査などの画像検査や読影、さらには放射線治療を担当しています。患者様の負担をできる限り軽減し、安全で質の高い医療を提供できるよう、放射線科スタッフ一同、協力しながら診療に取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

麻酔科部長 長澤 実佳



当院手術室では、緊急手術も可能な限り早急に対応出来るようになります。麻酔科外来で詳しい説明を行うことにより、安全な麻酔管理、患者さまの満足度を高められるような麻酔管理を行うよう努力しています。

2022年度より開始した無痛分娩は、自然分娩予定の80%を超える妊婦さんが希望され、徐々に増加しています。産婦人科医、助産師とも協力して安全で満足度の高い出産をお手伝いしていきます。

脳神経外科部長 秋元 治郎



3名の脳神経外科専門医が地域住民の方々を中枢神経疾患から守るべく、24時間、365日対応する体制をとっています。ガイドラインに則った最善の医療を提供し、当院で脳神経外科医療を受けられた全ての方々に、ご納得いただけます様、日々の研鑽を怠らず、努力して参ります。

精神科医長 岩尾 紅子



正確な評価と適切な治療提供に努めてまいります。精神保健福祉士、臨床心理士と緊密に連携し、必要に応じたサポートをおこなってまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器外科部長 池田 晋悟



呼吸器外科では気胸、縦隔腫瘍、肺の良性・悪性腫瘍、診断から治療まで幅広く対応しています。先生方と共に、患者さんには損にならない治療を心がけていきます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

乳腺外科医長 寺岡 洋子



新年あけましておめでとうございます。

乳癌診療は、新規治療の登場や個別化医療の進展により、日々多様化しています。昨年は多方面からご協力をいただき、少しずつではありますが、手術症数、新規紹介患者数も増えてきました。これからも患者さん一人一人に寄り添い、最善な医療を提供できるように努めてゆきたいと思います。呼吸器外科領域におきましても、質の高い外科治療と周術期管理を提供し、地域医療に寄与してまいります。本年も変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

形成外科医師 小宮 貴子



皮膚腫瘍の切除、傷跡の修正、乳頭・乳輪再建などを中心に、機能と美しさの両立をめざした専門的な治療を提供しています。まずはご相談ください。

当院での抗がん剤治療について

がん化学療法看護認定看護師 山本 幸美

私は外来治療室で抗がん剤治療の投与・管理を行っています。

当院で治療を受ける患者様は消化器系・婦人科・乳腺外科・血液疾患に対して抗がん剤治療を受けられる方が多いです。

当院の治療室はリクライニングチェアが5床であり、1日の患者様も5名までとなっているため、治療室もバタバタとした雰囲気ではなく、静かでゆったりとした環境で治療を受けることができます。患者様の中にはパソコンを持参され仕事をしたり、タブレットやスマホを観ながら過ごされたり、入眠したりと様々な治療時間を過ごされています。

治療の日は朝から来院されるため、長時間の治療の際はサンドイッチやおにぎりなど匂いのきつくないものに限り持ち込み可能となっており、治療を受けながら食事をされる方もいます。

また5名と少人数のため、患者様と看護師と話しやすい環境であり、疑問や不安なことをその場で話され、すぐ対応することもできます。

治療を受けられる患者様からの訴えで多いものは「何となくすっきりしないため、食べたくないけど、治療ができなくなると嫌だから頑張って食べています」と食事に関する話をされることがあります。治療ができなくなることは患者様にとって、病気が悪化してしまうのではないか、計画していたイベントなどに行けなくなることなど不安や焦りになりますが、副作用を我慢して治療を受けると、次の治療への意欲が減退してしまう可能性もあります。そのような時はなぜそのような症状が起きているのかを判断し、症状が和らぐような薬剤を薬剤師に相談をしたり、摂取しやすいものなどについて栄養士に相談し情報提供を行うなど、医師・薬剤師・看護師だけでなく他職種と連携を図りサポートしています。

患者様の苦痛や不安が最小限になり、リラックスした状態で、計画通り治療が行えるように努めています。



救急指定病院

総合病院 厚生中央病院 さんま通信

発行元：総合病院 厚生中央病院 経営企画広報室

No83 2026

〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7

TEL : 03-3713-2141 FAX : 03-3713-4963

URL <https://www.kohseichuo.jp>

＊＊＊看護師等、随時募集しております。詳しくは当院ホームページをご覧下さい。＊＊＊